

はじめ新報

HAJIME SHINPO

Vol.
35

編集・発行

船田はじめ事務所

〒320-0047

栃木県宇都宮市一の沢1-2-6

TEL 028-666-8735

FAX 028-666-8736

URL <http://www.funada.org/>

自民党の立て直しと、物価高など国民生活の不安解消のために

トランプ関税のゆくえ

トランプ大統領は就任早々の今年4月、アメリカと貿易関係のある各国に対し、いわゆる「相互関税」を課すことを突然発表しました。最大50%から最小で10%で、それぞれの国に対するアメリカの貿易赤字を反映させたものと言われ、日本には当初24%の追加関税が提示されましたが、発動は90日間猶予されました。ようやく7月24日に15%に引き下げることが決まりました。

ただし自動車にかかる個別関税25%への言及はなく、15%を超えることとなる品目の軽減措置も曖昧のままでした。これまで粘り強くアメリカ側と交渉してきた赤沢担当大臣は、9月に入り、なんと10回目の訪米に及び、かつて口頭で約束していた、5500億ドル(約80兆円)の日

本からの融資の文書化と、自動車にかかる関税15%引き下げや軽減措置について、ようやく大統領令を発することに漕ぎつきました。

この間の赤沢大臣の血の滲むような努力と、政府担当者の献身的な努力に対して、心からの敬意と感謝を申し上げます。また彼らを粘り強く指揮してきた石破総理の頑張りを、高く評価したいと思います。

とはいえものの、トランプ関税によって影響を受ける企業は数多く、特にアメリカ向け輸出を主に手がける中小企業にとっては15%でも相当な重荷であり、彼らを支援するための財政措置が不可欠です。またこれまで25%しか課せられていない自動車産業も、15%の重荷は相当な大きさです。自動車産業はとも裾野が広く、そこに部品を提供する企業の多くは中小です。きめ細かく支援措置を講じます。

トランプ政権との対峙

現在、米国際緊急権限法に依拠したトランプ関税に対して、ワシントン連邦控訴裁判所は憲法違反の一番判決を維持しました。今後これらを巡り法廷闘争が続くと思われますが、トランプ政権はこれを認めるどころか、ねじ伏せてしまうことは明らかです。

しかし再登板以来無理に無理を重ねてきたトランプ政権も、国際情勢や国内政治においては、不動産取引のようなデールでは通用しない現実を理解しつつあるように見えます。ウクライナ戦争におけるロシアの頑な態度、習近平率いる中国のしたたかな外交戦略、日本やEUなどの同盟関係にある国々も、脅しに屈せず国際秩序を維持しようと踏ん張っています。我々はトランプ大統領やその政権に対して、彼らの思うように世界の国々は動かないことを、スクラムを組んで示していかなければなりません。

あちこちで異常気象を引き起こす地球温暖化を防ぐパリ協定、自由貿易による経済繁栄を実現するためのWTOやTPPなどの枠組み、途上国を援助するための国連各機関の働きなど、アメリカも含む各国が苦勞しながら作り上げてきた、平和で公正な仕組みの大切さを、もっともつと声高に唱えなければなりません。

石破総理の退陣について

去る7月の参議院選挙敗北以来、昨年の衆議院選挙敗北と合わせて大きな責任があるとして、党内で石破総理辞任の声が高まっていますが、9月7日、遂に辞任表明

がありました。私は選挙敗北の責任は石破総理だけにあるのではなく、政治とカネの問題などの自民党の負の遺産、国民に響く政策や公約が打ち出せなかったことなど、自民党全体の責任であると主張しました。また少数与党ながら野党との真摯な話し合いで予算や重要法案の成立を果たし、トランプ関税の引き下げのため丁寧な日米交渉をおこなうなど、大きな成果を挙げてきたことなどを理由に、石破総理続投を支持して来ましたが、

しかし総裁選挙前倒しに賛成の議員とそうでない議員との対立が激化し、党分列に繋がりがかねない事態は避けなければならぬとの考えから、やむなく退陣を決意したことは、大変残念ですが評価しなければなりません。

総裁選挙のゆくえ

新たな総裁を選ぶための選挙がスタートしました。この新報が発刊される頃は大勢が固まっていると思いますが、九月中旬ではまだ予測不可能です。ただ私の総裁選に対する考え方は、第一に、保守から中道に至るまで幅広い人びとを包摂する柔軟な考えを持った候補を応援したい。

第二に、少数与党では何も出ないため、野党と真摯に向き合って粘り強い交渉ができる候補を支持したい。第三に、眼下の物価高に効果的に対応できる政策を持つとともに、中長期的には財政の健全化を心に秘めている候補を応援したいと考えます。

私はこれまで14期46年の政治経験を生かしつつ、自民党のご意見番として同党の立て直しを目指して頑張ってきました。皆様の一層のご指導をよろしくお願いたします。

マイオピニオン

沖縄慰霊80年と荒井退造

(2025年6月30日より)

昭和20年6月23日、激烈な戦況の中、沖縄の地上戦が事実上終結した。あれからちょうど80年経ったが、その傷跡と哀しみは絶えず、平和の礎のある摩文仁の丘をはじめとする沖縄各地、そして本土でも、追悼式や色々な催しが行われた。

摩文仁の丘への登り口付近では、当時沖縄県知事だった島田淑(あき)らをはじめとする、沖縄県職員や犠牲者を追悼する碑に花を捧げる県関係者や、ご遺族の姿もあった。さらにその後方の一段高いところには、島田知事と、最後まで生死を共にした荒井退造警察部長(当時)の、終焉の地を記した碑も建っている。

島田知事は神戸市の出身で、旧内務省からの最後の官選知事、荒井警察部長(現在の県警本部長)は、栃木県清原村上籠谷の出身で、旧制宇都宮中学から明治大学卒で、内務省に入った郷土の大先輩である。

2人は戦況厳しくなってきた沖縄の島民を、県外に疎開させる作業を必死で行い、約20万人を疎開させたとい場所から、南部のやや安全な場所に移すなどして、島民の多くの命を救ったと言われる。しかし最期は摩文仁の丘に追い詰められ、2人とも当地で自害したとされる。

戦後になり島田知事の功績はかなり明らかになっていったが、荒井退造の功績はほとんど人口に膾炙されなかった。しかしこの10年の間に、宇都宮の郷土史家が丹念に文献に当たり、ようやく目の目を見ることがとなった。コロナの時期を挟んで、この2人の奮闘ぶりを描いた映画『島守の塔』が上映され、その功績を顕彰する沖縄と本土の交流会も開かれた。

残念だったのは島田知事や県庁職員の追悼の碑には、以前から兵庫県関係者が献花をしてきたが、栃木県関係者の姿はなかったという。このことを憂いた沖縄県産業振興公社に勤める栃木県出身者が私に働きかけ、栃木県関係者の献花をお願いして、ようやく実現したことがあった。

戦争を起すからには、双方にそれなりの理由はある。しかしそれが国同士では通用しても、国民にとっては取り返しのつかない犠牲をもたらす。太平洋戦争の国内唯一の地上戦だった沖縄の戦いは、島民の4人に1人が犠牲となる苛酷なものだった。この修羅場で地元出身でない2人が決死の覚悟で働いた事実を、私たちはもっとしっかりと見つめなければならぬ。

活動
報告

中学生の国会見学で国会の役割を説明しました。



衆院選後の新体制で立憲の枝野氏が憲法審査会長、私が会長代理となりました。



ゴルフボールの愛好者の皆さんと懇談しました。目の不自由な方も青眼の方も平等にプレー出来るのが魅力です。昨年のパリパラリンピックでの日本優勝が追い風です。



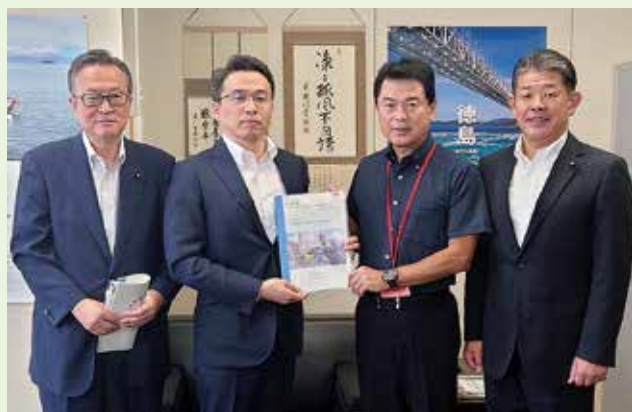
衛藤征志郎議員の後を受けて、銃剣道振興国会議員連盟会長に就任しました。



EU議員団をお迎えして、衆議院議長を表敬しました。後ろに飾ってある歴代議長の肖像画のうち一番右が祖父船田中の絵です。



7月の参議院選挙では皆様のご尽力により、高橋かつのり候補が当選することが出来ました。改めて御礼申し上げる次第です。写真はJAうつのみや上三川営農経済センター野菜集荷所での街頭演説です。猛暑のなか大勢の人が熱心に耳を傾けてくれました。



佐藤宇都宮市長、五十嵐衆院議員とともに国土交通省に要望活動を行いました。



本県への防災庁（仮称）誘致を目指して内閣府瀬戸副大臣に報告とともに要請しました。



消費生活相諸事業の存続に向けて、党消費者問題調査会長として伊東内閣府消費者担当大臣に要望しました。

船田はじめ令



毎年開催される恒例の新春の集い。新年最初の後援会全体の集まりです。今年も華やいだ雰囲気の中、大勢の方の参加を頂きました。



東京プリンスホテルにて元政会パーティーを開催。茂木県連会長や五十嵐衆院議員も駆けつけて頂きました。



JA栃木中央会の国府田代表理事会長から農業政策の要望を受けました。



年に2回ラジオ関西で、私の大阪でのブレーンの皆さんと共にトーク番組に出演しています。



毎年夏に開かれる青年の会の集い、今年は「総会並びに懇親会」として7月2日に宇都宮市内のホテルで開催されました。総会では4期8年の間会長として会の発展のため尽力頂いた荒井学氏から、会長職を安藤篤史氏が引き継ぐことが了承されました。



4月に宇都宮市内のホテルで開かれた女性の会の桜を観る会。昨年の総選挙の後の久々の集まりでしたが、皆和やかに春の宵を楽しみ、今後の活動などについて話し合いました。



近年観光地としても注目されている大谷地区へ、また宇都宮市街へも、より便利に足を向けてもらおうと、東北道と大谷街道の交差点付近に（仮称）大谷スマートインターチェンジの建設が決まり、その着工式と鉄入れが行われました。



「文化と知の創造拠点づくり」において、茶道文化の振興を図るための施設整備を、表千家栃木支部長として裏千家様とともに福田知事に要請しました。

ご質問、募集に関するお問い合わせは「船田はじめ事務所」までお願い致します

【船田はじめ事務所】

●住所 宇都宮市一の沢1-2-6 ●TEL 028-666-8735 ●FAX 028-666-8736
●URL <http://www.funada.org> ●e-mail fnd-info@funada.org



後援会入会申込